



●山の日ポスター展 2024 に出展して

8月1日より巡回開催されている「山の日ポスター展 2024」（主催：日本グラフィックデザイン協会長野地区）が終了日に迫っております。

今回初めてポスター出展させていただき、会期中は3会場における作品の確認を行いました。

「照明特性の違いによる作品鑑賞への影響」を中心に、「ポスター細部の観察」（人の手による表現をどのようにデジタルに落とし込むか、手書きの不均一なパターンやテクスチャ、滲みなど）、「作品名と実作品との関係性」（文脈、メッセージ性、メタファー、受け手の主観と客観など）に注目しました。

8月11日の「山の日」をどのように捉えるか？ポスターを通して何を伝えるか？。伝わった後の感じ方は「人それぞれ」を目指すのか、もしくは「同一」を目指すのか。

生まれ故郷の長野県長野市で作品展示されたことで、オールドルーキーによる「最初の一步」を踏み出した感覚となりました。

スペースに都合で、ポスターの写真は、掲載できませんでしたが、別の機会に紹介できればと思っています。

（吉澤陽介 主査より：014）

●広告カラーデザイン・ここだけの話

カラーデザイン研究会（研究会主査：松田博子）の講演会です。

ブランディング及びマーケティング・コミュニケーションのクリエイティブ現場でどのように色が活用されているかの事例が紹介され、さらにクリエイティブディレクター、アートディレクターとして手がけられた事例の貴重な裏側の話まで伺うことができるでしょう。

◆講師：高橋 俊臣先生のプロフィール：2000年、金沢美術工芸大学美術工芸学部視覚デザイン卒業、同年、(株)大広入社。2020年から岡山県立大学デザイン学部ビジュアルデザイン学科准教授。

◆日時：2024年12月21日(土)、18時～(19時30分までの予定)

◆場所：オンライン開催 (ZOOM 会議)

◆参加費：色彩学会会員 (1,000円)、学生学会員 (無料)

◆申込先：次のリンクからお申込み下さい。(12月16日(月)締め切り)

<https://forms.gle/piPd7R3ywjt31Yft8>

◆問い合わせ先：eメール：
color.design.sikisai@gmail.com

(日本色彩学会メールニュース544号より引用)

●大辞泉ひろいよみ 70ーく

黒南風：くろはえ。梅雨の初めに吹く南風。

黒八丈：くろはちじょう。黒色で織り目を横に高くした絹織物。半襟、袖口などに用いる。初め、八丈島で織ったのでこの名がある。東京都五日市の特産。黒八。

黒日：暦法の一。万事に忌みつつしむべき大凶日で、無理に違反すると死に至るといふ。昔、暦に黒丸をつけて示した。受死日。

黒表紙：くろびょうし。表紙を黒い布紙で装丁した本。黒い表紙のものが多かったので役者評判記のこと。黒本。

黒房：くろぶさ。相撲で、土俵上のつり屋根の北西の隅に垂らす黒色の房。冬と玄武神を表す。→青房/赤房/白房。

黒不浄：くろふじょう。死の汚れ。→赤不浄。

黒星：くろくわいしるし。黒丸。相撲の星取表で負けを表す黒い丸。転じて負けること。失敗すること。的の中央にある黒い丸。ねらったところ。急所。凶星。瞳のこと。

黒牡丹：くろぼたん。牡丹で花が黒みがかった紫色のもの。中国の故事から牛のこと。

黒身：くろみ。魚肉の黒ずんだ部分。血合い。

黒水引：くろみづひき。半分を白、半分を黒または紺にした不祝儀用の水引。

*大辞泉：小学館発行国語辞典

(永田泰弘)